

## 事例5 自己理解を深め、在籍学級でも自信をもって生活できる児童を育成する指導の事例

○学年 発達障害・情緒障害通級指導教室（6年）

○指導内容及び指導の形態 自立活動

○事例のポイント

- ①児童が自らの課題に気付き改善に取り組むことで、在籍学級でも自信をもって生活できるようになる。
- ②自立活動の内容と本人の実態を照らし合わせ計画的に指導する。
- ③会話内容の振り返りに、ICT端末の音声入力機能を活用する。

### 1 主題名 「話して伝えよう」

### 2 主題設定の理由

本通級指導教室は、発達障害・情緒障害通級指導教室である。

本児は、本年度より通級による指導を開始した第6学年の男子児童である。これまでは、在籍学級にて担任を中心に、家庭と連携しながら本児への支援を行ってきた。学力は年齢相応であり、在籍学級では該当学年の学習に参加し学習内容を身に付けることができている。しかし、授業中に場の状況を適切に判断できずに、その場にそぐわない大きな声や大きなりアクションをとってしまうことがある。また、クラスの児童との会話によるコミュニケーションを積極的に図ろうとしている様子が見られるが、相手の反応を意識することや順序立てた話し方に課題があるため、一方的な関わりになってしまうところがある。その為、うまく会話に入れなかったり、会話が続かなかったりすることがある。そうした経験から、同年代の子供との関わりへの苦手意識が生まれてきている。一方、話をよく聞いてくれる担任や周りの大人との関わりを好むようになってきている。保護者は、本児がコミュニケーションに関わる能力を向上させ、同年代の友人を作り充実した学校生活を送れるようになることを希望している。

そこで、本主題では、主として自立活動の6区分27項目における「2心理的な安定（3障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲）」、「3人間関係の形成（2）他者の意図や感情の理解に関する事」、「6コミュニケーション（1）コミュニケーションの基礎的能力」及び「6コミュニケーション（5）現状に応じたコミュニケーション」を取り扱う。

「2心理的な安定（3障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲）」については、認知能力を高めることで、的確な状況判断やものの捉え方ができるようになるとともに、在籍学級での学習への意欲を高められるようにする。

「3人間関係の形成（2）他者の意図や感情の理解に関する事」については、会話の際の相手の表情やリアクションの意味を理解できるようにする。

「6コミュニケーション（1）コミュニケーションの基礎的能力（5）状況に応じたコミュニケーション」については、相手に伝わりやすい話し方や会話の仕方を身に付けることで、場に応じたコミュニケーションや新たな交友関係を築くための基礎的な能力を身に付けられるようにする。

### 3 児童の実態

- ・大人と積極的に関わる事ができる。
- ・自らの興味や関心があることについて、伝えたいという意識がある。
- ・会話や関わりの際に相手意識をもつことが苦手である。
- ・事柄を順序立てて話すことが苦手である。
- ・コミュニケーションに関して自信がないところがある。

#### 4 目標

- (1) 見たり聞いたりすることで、理解したり判断したりすることができる。  
 〈2心理的な安定 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲〉
- (2) 相手の様子を意識して話したり行動したりすることができる。  
 〈3人間関係の形成 (2)他者の意図や感情の理解に関すること〉
- (3) 自分の思いや考えを、順序立てて話すことができる。  
 〈6コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力〉
- (4) 会話に入るタイミングや、場に応じた会話をすることができる。  
 〈6コミュニケーション (5)状況に応じたコミュニケーション〉

#### 5 指導計画

学期	授業目標 (主な授業内容)	授業時数	
1	アイスブレイキング等の活動に取り組み緊張感を和らげ、新学年での生活に慣れることができる。(SST (※)、ゲーム) ※ソーシャルスキルトレーニング	1	
		2	
		3	
	自己紹介や簡単な会話の練習をすることで、クラスの子と関わることができる。	実態把握 (アセスメントテスト)	4
		5	
	5W1Hを意識して、最近の出来事について話すことができる。(家での出来事、学校での出来事、フリートーク、その他)	認知能力を高めることで、場の状況を判断したり、相手の様子を感じたりすることができる。	6
			7
	特支編成要領 P25～ 指導計画作成上の留意事項(1)		8
			9
	2	5W1Hを意識して、最近の出来事について話すことができる。(家での出来事、学校での出来事、フリートーク、その他)	10
1			
2			
3			
4			
特支編成要領 P25～ 指導計画作成上の留意事項(7) 特支編成要領 P25～ 指導計画作成上の留意事項(15)		(聞く力を高める活動、見る力を高める活動、ワーキングメモリを高める活動)	5
			6
			7
			8
			9
自らの会話を視覚化する活動を通して、自らの思いや考えを端的に伝えることができる。(音声入力による会話の振り返り、録画機能による話し方等の振り返り)		本時	10
			11
			12
			13
			14
相手の思いや考えをくみ取ることができる。(SST、会話の様子の録画による振り返り)		15	
		1	
		2	
		3	
		4	
3	自らの会話を視覚化する活動を通して、自らの思いや考えを端的に伝えたり、相手の思いや考えをくみ取ったりできる。(SST、会話の様子の録画による振り返り)	5	
		6	
		(聞く力を高める活動、見る力を高める活動、ワーキングメモリを高める活動)	7
			8
			9
	10		
	特支編成要領 P25～ 指導計画作成上の留意事項(11)		実態把握(アセスメントテスト、フィードバック)
		2	
		3	
		4	
5			
これまでの活動を振り返るとともに、自らの成長を実感することで、進学に向けて自分自身についての目標をたてることができる。(1年間の振り返り、目標設定)		6	
		7	
		8	
		9	
		10	

6 本時の構成（指導時間 90 分（学習活動 60 分 休憩 5 分 保護者フィードバック等 25 分））

(1) 本時の目標

- ・見たり聞いたりすることで、理解したり判断したりすることができる。  
 〈2 心理的な安定 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲〉
- ・自分の思いや考えを、順序立てて話すことができる。

〈6 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力〉

(2) 展開

配時	学習内容	学習活動	指導上の留意点（※指導の手だて*評価の観点） ○児童の活動 ◎予想される児童の反応 □指導者の主な指示、発問等
5分	1 挨拶	学習の準備をする 挨拶をする	□姿勢を正して、挨拶をしましょう。 ○児童の挨拶で学習を始め、「今日の予定」カードに日付や名前などを書き込む。 ※着座の姿勢が整うよう声をかけ挨拶をさせる。
15分	2 フリートーク	1週間の出来事の中から1つの事柄について順序立てて話す	□最近の出来事について分かりやすく話しましょう。 ○最近の出来事について話す。 ◎自分が話したいことがあいまいになってしまう。 ※5W1Hの話型で、順序立てて簡潔に話させるようにする。 ※ICT端末のビデオ機能や音声入力機能を用いて、話している様子を録画したり、話の内容を文字化したりする。後で見返しながら、話し方や話す内容について、客観的に振り返れるようにする。 *自分の思いや考えを、順序立てて話すことができる。
<div data-bbox="207 851 686 1086" data-label="Text"> <p>事例のポイント① コミュニケーションに関わる課題の改善を図ることで、児童が在籍学級で充実した生活をおくれるようにする。</p> </div>			
<div data-bbox="204 1111 842 1581" data-label="Image"> </div>			<div data-bbox="845 1176 1436 1489" data-label="Text"> <p>事例のポイント③ ICT端末で、話す様子を録画したり、音声入力で文字化したりする。その後、一緒に見返し振り返ることで、自分自身の話し方の特徴に気付けるようにする。また、より良い話し方ができるようにする。</p> </div>
20分	3 ビジョントレーニング	視覚認知力を高めるための活動に取り組む	□よく見て同じ絵を探してみましょう。 ○同じ絵を探す活動に取り組む。 ◎独り言を言いながらも集中して取り組む。 ※課題として「同じ絵探し」を行うことで、必要な情報を意識して注視できるようにする。 *見ることで、理解したり判断したりできる。
	4 集中トレーニング	集中力を高めるための活動に取り組む	□文を読むので順番に注意して聞きましょう。 ○文章を聞いて内容についての質問に答える活動に取り組む。 ◎自信がなさそうに答えるが、概ね聞き取れている。 ※「何が1番?何は何番?」ゲームを行うことで、意識的に「聞くこと」を、的確に「答えること」ができる

ようにする。  
\*聞くことで、理解したり判断したりできる。

事例のポイント②

本人の実態と自立活動の内容を照らし合わせて、計画的に活動を設定する。児童の認知能力的課題に即したトレーニングを、繰り返し行い課題の克服を図る。

15分 5 SST 質問の仕方や、的確な答え方などを身に付ける活動に取り組む

□相手に伝わりやすい質問の仕方を練習するゲームをしましょう。  
○自分の聞きたいことが尋ねられるとともに、聞かれたことに的確に答えられるようになるための活動「質問♪絵合わせゲーム」に取り組む。  
◎繰り返していくうちに、自分の意図を相手に伝えられるようになってくる。  
※質問をしたり、尋ねられたことに的確に答えたりする活動に取り組む。  
※伝わりやすい質問の仕方について伝える。

**質問♪絵合わせゲーム**

く、あ 組み合わせると、1つの絵になるカードを集めるゲームです。  
じかんらい 時間内に、できるだけたくさんの絵を完成させた人が勝ちです。

あそ 遊び方

①カードを全て分け合います。配られたカードの中で、組み合わせができたカードは、自分の前に並べます。  
②自分が欲しいカードを持っていき、相手に「〇〇さんに質問です。」  
「△△のカードを持っていますか?」と聞きます。  
聞かれた人は、  
◎持っている場合は、  
「はい、あります。どうぞ。」と言ってカードをわたします。  
◎持っていない場合は、  
「いいえ、ありません。」と言います。  
☆「△△のカード」は、「メロンのカード」のように聞いても、「青い魚のカード」のように聞いても良いです。相手に伝わりやすいように聞きましょう。  
③組み合わせができたなら、自分の前に並べて置きましょう。  
☆一緒に遊んでいる人どうしのやり取りをよく聞いて、誰が持っているかを予想してみましょう。

「〇〇さんに質問です。」  
「△△のカードを持っていますか?」のように聞く。  
「△△のカード」は「メロンのカード」のように聞いても良い。  
分からないものは、具体的な特徴(色、形、種類)を伝える。

※質問を聞き、的確に答えられるように支援する。



事例のポイント①

児童の課題に即した、楽しみながら取り組める活動にすることで、自分自身の課題に気付くとともに、意欲的に改善克服を目指すことができるようにする。また、通級で成功体験を積むことで、在籍学級でも自信をもって生活できるようにする。

5分 6 振り返り 本時の学習を振り返る

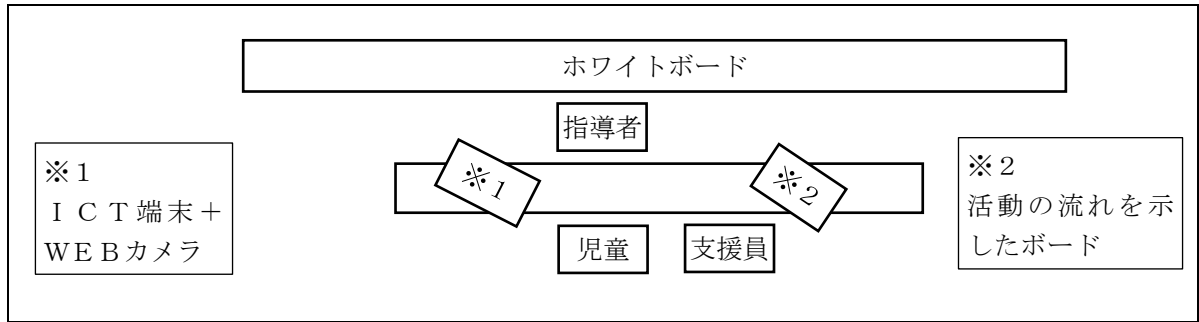
□今日の活動の振り返りをしましょう。  
○今日の学習の振り返りを行う  
※「今日の予定」カードに、活動の振り返りを書き込ませる。◎、○、△等とともに、「ニコニコ点」で自己評価させる。

7 本時の評価

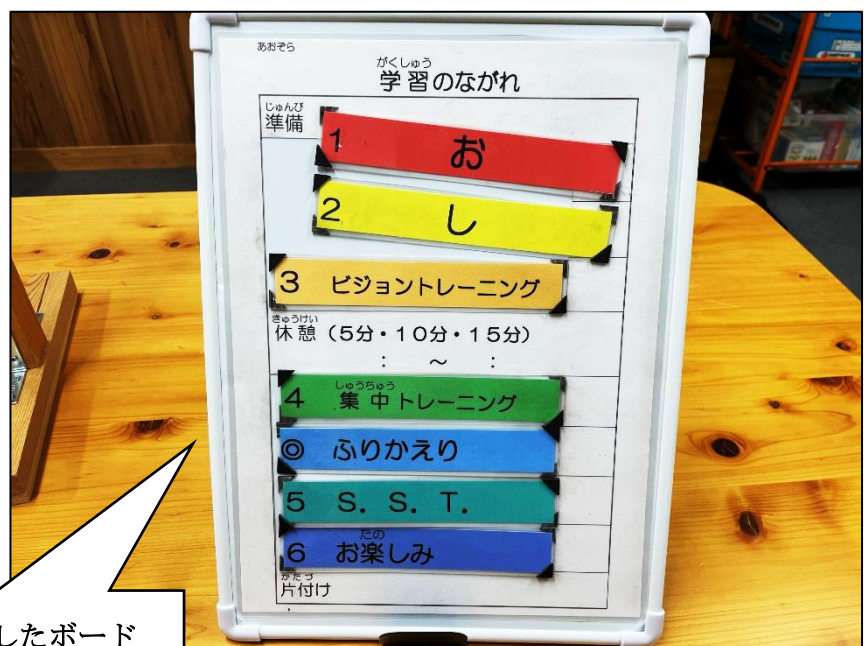
- ・見たり聞いたりすることで、理解したり判断したりすることができる。
- ・自分の思いや考えを、順序立てて話すことができる。

## 8 備考

### ・教室環境図



### ・使用ICT機器等



参考

自立活動の授業づくり（流れ図）

児童名	学年	作成者
〇〇 〇〇	第6学年	〇〇 〇〇

計画（PLAN）

実態把握① 情報収集 実態把握②-1 情報の整理	
1 健康の保持 （日常生活面，健康面など）	規則正しい生活ができている。 自分自身の成長に関心をもっている。
（追加）	
2 心理的な安定 （情緒面，状況の理解など）	素直に感情を表すことができる。 自己肯定感が低い。 状況に合わせて感情をコントロールすることが苦手である。
（追加）	
3 人間関係の形成 （人とのかかわり，集団への参加など）	大人と積極的に関わることができる。 会話を好む。 同年代の子と関わりたい気持ちがあるが、適度な距離感をつかめずうまくいかない。
（追加）	
4 環境の把握 （感覚の活用，認知面，学習面など）	単純な計算を素早く行うことができる。 読んだ内容を理解することは苦手である。 集団の中で集中を持続させることは苦手である。
（追加）	
5 身体の動き （運動・動作，作業面など）	運動は得意であり好んで行う。 持久力が必要な運動は苦手である。
（追加）	
6 コミュニケーション （意思の伝達，言語の形成など）	積極的に会話をしようとしている。 一方的な話になりがちである。
（追加）	
7 その他 （性格，行動特徴，興味関心など）	喜怒哀楽がはっきりとしている。 特定のものに対する興味関心が高い。
（追加）	

実態把握②-2 児童の学習上又は生活上の課題や、これまでの学習状況の把握
<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場にそぐわない大きな声を出したり、大きなリアクションをとったりする。</li> <li>・会話は、相手の様子を感じることができず、一方的になってしまい続かない。</li> <li>・順序立てて話すことが苦手であり、考えや思いが伝わりにくい。</li> </ul>

実態把握②-3 児童の3年後の将来像
<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場の状況にあった行動や、対応ができるようになってほしい。（心）</li> <li>・同年代の子との会話を楽しめるようになってほしい。（コ）</li> <li>・自分の考えや思いを、相手に伝えられるようになってほしい。（コ）</li> </ul>

指導すべき課題の整理③ 課題の抽出
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく物怖じしない面がある。（心・人）</li> <li>・落ち着いていれば、自分の行動を振り返ることができる。（心・人・コ）</li> <li>・語彙力があり早口で話すところがある。（心・人・コ）</li> </ul>

指導すべき課題の整理④ 中心的な課題	
中心的な課題	背景
①その場にそぐわない大きな声や、大きなリアクション。	自分の感情が優先となり、周りの様子を意識できていない。
②会話が続かなかつたり、広がらなかつたりする。	話している相手の様子を意識したり、話の中心を意識したりすることができていない。

指導目標の設定⑤
①見る、聞くなどの認知能力や短期記憶力を高める。
②会話に関するSSTに取り組み、コミュニケーション能力を高める。

項目の選定・指導内容の設定

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	言語の受容と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		集団への参加の基礎に関する事	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	身体の移動能力に関する事	コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5)	健康状態の維持・改善に関する事			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	状況に応じたコミュニケーションに関する事
Key words		認知能力 課題克服への意欲	相手意識			コミュニケーションへの意欲

指導内容	場に状況を判断するとともに、適切に行動することができるようにする。	相手の表情や反応から、思いや考えをくみ取ることができるようにする。	言葉で伝えたり、聞いたりできるとともに、簡単な会話を続けることができるようにする。
指導場面	・ビジョントレーニング・集中トレーニング	・フリートーク・SST	・フリートーク・SST

項目と項目を関係付ける際のポイント

①見ることや聞くことなどの認知能力を、コミュニケーションの際の他者理解の力に結び付けられるようにする。
②言葉によって伝えられる力をつけることで、コミュニケーションに対する意欲を向上できるようにする。